琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会

水源保全部会（第１回）の概要について

１ 開催日時：	平成 29 年 7 月 12 日(火) 15:00～17:00
２ 場　　所：	関西広域連合本部事務局　小会議室
３ 出 席 者：	瀧健太郎委員、田中賢治委員、松井孝典委員
４ 議　　事：	課題と解決策及びシミュレーションの方針

＜部会の調査、検討の進め方＞

○ 流域の土地利用（都市、田、森林など）の水循環に与える影響をシミュレーションにより定量的に評価するとともに、将来にわたって生態系サービスを受け続けるために必要な施策を検討する。

○ 保全対象は地下水に限る必要はなく、いろいろなシミュレーション結果を見ながら流域全体の森林や農地などの価値や土地としての性能を評価し、関西広域連合が広域的な自治体として、関西広域連合圏域内の森林、農地等に対してできることを政策として考える。

○ この部会で検討する流域の水源保全に対する取り組みは、国連が掲げる SDGｓにも対応する最適要求事項であり、かつ環境省がいう地域循環共生圏形成と相似形であると言える。

○ 施策検討の方法としては、2030 年等、一定の期間内において、森林の維持管理の状態の良否、渇水年と豊水年を組み合わせて４つのシナリオを作り、流域全体での便益とリスクの計算を行い、このリスクをヘッジするための施策の評価をすることが考えられる。

○ 田中准教授が開発された陸面過程モデル（SiBUC）は、流域全体において 100m メッシュで水の分布を計算できるため、計算結果は小学校区単位や市町村単位で涵養量を集計することも可能である。施策検討のための根拠数値を算出するにあたり非常に優れたモデルである。

○ 連合委員会に提案を行い、政策の必要性が認められたならば、必要に応じて、シミュレーションの精度を高め、信頼度を上げる。